

平成29年度 第2回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

平成29年12月19日（火）13時30分から、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その議事内容について公表します。

（議事内容）

○場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80

○出席者 委員：17名 オブザーバー：12名 事務局：5名 計34名

○内 容 (1) 秋田市中心市街地活性化基本計画に関する事業の進捗について

- ① 県・市連携文化施設整備事業および旧県立美術館の活用
- ② 千秋公園再整備基本計画の改定
- ③ 秋田オーパの開店
- ④ ノーザンステーションゲート秋田 駅東口新事業計画
- ⑤ 秋田市中通CCRC拠点整備事業

(2) 秋田市中心市街地活性化協議会事業の進捗について

- ① 中心市街地商店街活性化支援事業
- ② ミュージアム連携情報発信事業「アートなまち歩き」
- ③ 芸術文化ゾーン活用研究会

(3) その他

- ① ウッドデザイン賞 2017 最優秀賞受賞
- ② あきた光のファンタジーの実施
- ③ なかいちウィンターパークの実施
- ④ なんもダイニングの実施
- ⑤ ミュージカル東海林太郎伝説の公演
- ⑥ 東北経済産業局からの施策説明

○結果報告

【三浦会長の開会挨拶】

本日は悪天候のなか、第2回秋田市中心市街地活性化協議会にご出席いただきありがとうございます。

今年4からスタートした第2期中活計画も早や8カ月余りが経過いたしました。

この間、中核事業である県・市連携新文化施設は、利用者側の声を集めるワークショップが6回実施され基本設計案がまとまり、現在、県・秋田市それぞれの議会に示されております。

また、秋田市のシンボルでもある千秋公園では、再整備基本計画の改訂作業が進められ、素案がまとまったところであります。

こうした行政の動きに呼応して、当協議会では秋田市が目指す「芸術文化ゾーン」の形成に向けて、「芸術文化ゾーン活用研究会」を設置し、官民が連携して取り組むソフト事業について意見交換を交わしております。

民間サイドでは、10月28日に大型商業施設「秋田オーパ」がオープンし、秋田駅前に新たな賑わいの場が誕生いたしました。

また、今年4月にグランドオープンしておりましたJR秋田駅の木質化プロジェクト「ノーザンステーションゲート秋田」が、12月7日、全国453点の応募作品の中から見事「ウッドデザイン賞2017」の最優秀賞に選定されましたことに加え、15日には秋田駅東口側での新たな開発プランの発表もありました。

このあと、それぞれの事業の進捗について、関係者の皆様からご報告いただき、情報共有を図ってまいりたいと存じます。

最後になりますが、本日は行政関係機関をはじめ多くの皆様からご臨席いただいております。

今後も基本計画の円滑な推進に向け、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申しあげ、開会の挨拶といたします。

【新任者紹介】

当協議会の共同設置者である公益財団法人秋田市総合振興公社の理事長交代により、職務執行者が変更となったため、新任者を紹介した。

- ・公益財団法人秋田市総合振興公社 理事長 菅原 真 様

【内 容】

(1)秋田市中心市街地活性化基本計画に関する事業の進捗について

①県・市連携文化施設整備事業および旧県立美術館の活用について、秋田市企画財政部企画調整課齋藤一洋課長が報告した。

県・市連携文化施設整備事業については、今年度から平成32年度までの4年間にわたる継続費を設定した。秋田市の予算は2,474,676千円。内訳は和洋高校の土地取得費、移転補償費、実施設計費、周辺建物の事前調査費、建築確認等の手数料である。費用負担の割合は、市が42.5%、県が57.5%となっている。当初は総事業費を約225億円と見込んでいたが、埋蔵文化財調査範囲の変更と、吹付塗料にアスベストが含まれている事が判明し、除去費用が発生したため、現時点では県単独事業を含めて約231億円の見込みとなっている。

基本設計案については、1月末に向けて細部を詰めていくが、施設規模は、鉄筋コンクリート造一部鉄骨造の地上6階・地下1階とし、建物の最大高さは37メートルとなっている。駐車場は地上2階建て。これまで、県市民の意見を反映し、トイレの位置や男女のバランス、目的別に部屋を再配置するなどの変更を実施している。

また、県民会館が閉館し、新しい文化施設が開館するまでの約4年間、県内の芸術文化活動の停滞を招かないために、秋田市では①秋田市文化会館の利用調整と②ジョイナス利用団体に対し

て、市内公共施設の情報提供に努め、代替施設のないバンド練習室については、にぎわい交流館 A U およびアルヴェ市民活動センターにドラムセットを移設する。秋田県では①ネットによる空き情報の一元的提供・相談窓口の設置、②県営体育施設を活用した文化団体の芸術発表機会の確保、③秋田市以外の市町村文化施設の利用促進などで対応する。

旧県立美術館の利活用については、市民参加のワークショップを4回開催し、現在は市民の意見を入れながら市の考え方を精査している状況である。1月もしくは2月の議会に市の考え方を示し、理解が得られれば、県に譲渡の申し入れを行い、市のまちづくりに活用したいと考えている。

ワークショップを通じて、芸術文化ゾーンにおける旧県立美術館の役割として、①人をつなぐ、②まちに開く、③活動が見えるといったキーワードが見えてきた。役割に必要な機能では、芸術文化・歴史文化の交流機能、緑を活かしたくつろぎ空間機能などの意見があった。

また、他都市の事例として、京都芸術センター（京都市）と鴨江アートセンター（浜松市）を視察した。市民力を活かすため、市民交流や人材育成などを目的とした自主事業の実施が印象的だった。建物を作るだけでなく、民間と連携して取組んでいかなければいけないと感じた。

今後は1月議会へ中間報告、2月議会へ調査結果報告を行い、市として利活用方針を確定していきたいと考えている。

次に、②千秋公園再整備基本計画の改定について、秋田市建設部公園課保坂源栄課長が報告した。

11月21日に委員17名で構成される第2回改定委員会を開催した。本整備計画の改定は、昭和56年の千秋公園整備基本計画、平成9年の千秋公園再整備基本計画を受けて、社会情勢や市民ニーズ等の変化に対応した整備計画へ改定するものである。

計画の対象範囲は、都市計画公園区域および隣接公共施設（中央図書館明徳館、旧県立美術館）の敷地を合わせた区域（22.5ha）である。計画期間は短期（5年以内）、中期（15年以内）、長期（将来的整備）に分け、段階的な整備目標を設定する。

計画の改定に当たり、千秋公園の利用実態やニーズ等を把握するため、公園利用者や18歳以上の市民1,000人、学生、児童および商業・観光関係者167社を対象に市民等意向調査を実施した。調査結果では、改善すべき点として「駐車場の増設」「さくらの更新」が多く、県外からの来園者は「案内板や誘導標識の充実」、学生からは「飲食店」、商業・観光事業者からは「歴史・文化的イベントの充実」を求める声が多くあった。ニーズに応じた整備が必要という結論に至っている。

基本理念を「久保田城、そして千秋公園として育まれてきた魅力（財産）を活かすことで、憩いとにぎわい空間を再生する～歴史の風情と自然に包まれ、人集い花かおる千秋の園～」とし、5つの基本方針を設定した。例えば、基本方針「緑や花と風景の再生による、新たな魅力の創出」では、さくらの更新、さくら再生重点エリアの設定、ワークショップの開催とさくらサポーター

の育成などの整備項目がある。5つの基本方針に基づく再整備計画として、全26項目、59施策を定めた。

今後の改定作業スケジュールは、平成30年1月にパブリックコメントを実施し、2月に第3回改定委員会を開催する。2月の市議会定例会において改定計画を報告する予定である。

次に、③秋田オーパの開店について、秋田オーパ山本克彦館長が報告した。

10月28日にオープンした。販促コンセプトは「キル。シル。クウ。」で、サブメッセージは「ファッションもブンカも全部」である。これまでのファッションビルからライフスタイル型の施設に生まれ変わろうとしている。ビジュアルキャラクターを佐々木希さんをお願いし、12月25日まで協力的にPRしていただいている。

告知についても、関係各所より協力いただき、テレビを中心に周知を実施している。また、JR秋田駅改札前のフラッグやフリーペーパーなども活用した。2週間前にオープンした高崎オーパは首都圏であるため一概に比較できないが、秋田オーパでは大規模告知ができています。

イベントについてはJA協賛によるダリアプレゼント、イオンカード新規入会キャンペーン、ハロウィンイベント、ノーザンハピネッツへの協賛による冠ゲーム開催、市立恵比寿中学、駅前商業施設合同企画など、連携して実施している。

10月28日のオープン時には、約1,300人が列を作り、2日間の来店客数は25,000人であった。現在もフォーラス営業時を上回るお客様に来館いただいている。

今回のオープンにあたり、ディスティネーションカテゴリー（秋田初、秋田1番など）と、日用使いのお店（ヨガ、学習塾、雑貨など）を集めた。スイーツパラダイス・プロント・ナガハマコーヒーなどの飲食店、サンキューマート・ヴィレッジヴァンガードなどの雑貨店、タワーレコード、ジュンク堂書店などフォーラス時代から支持されていた店、ウサギオンライン・マジエストிக்கレゴン・テチチなどのヤングカジュアルショップが好調。また、あそびパークにより、ファミリー客の取込みもできている。特にスイーツパラダイスは、これまで大都市圏で直営店のみの展開であったが、秋田オーパでフランチャイズを探し、秋田の地元事業者協力のもと、全国初のフランチャイズによるオープンが実現した事例となっている。

建物については、木調の内装を演出し、バスターミナルや秋田駅との親和性を意識した。

一方、高崎オーパについては、12月22日にオープンし高崎駅と直結している。また、館内には高崎市のショップが2つ入っている。

1つ目は、高崎観光協会の「高崎じまん」というお店で、全国に流通されていない地元商品のアンテナショップである。2つ目は「開運たかさき食堂」というお店で、高崎市の名物であるスパゲッティなどを提供している。

1階には高崎市長等身大パネルが話題となり、人気スポットとなっている。秋田オーパでも、秋田市などと連携して話題づくりに取り組んでいきたいと考えている。

次に、④ノーザンステーションゲート秋田 駅東口新事業計画について、JR秋田支社永杉博正地域活性化推進室長が報告した。

12月15日に新たなプロジェクトを発表した。秋田駅東口のぼぼろード南側で現在駐車場となっている場所に、食事付き学生マンションと合宿所を併設した計画を推進することとなった。

秋田駅東口は「秋田プラチナタウン研究会」の一環として、健康・スポーツを通じた、3世代が元気に暮らせるプラチナタウンの検討を進めており、「城東スポーツ整形クリニック」が2018年春に開業予定、バスケットボールを中心とした体育館と子育て支援施設を一体的に整備する「JR秋田ゲートアリーナ計画」が2019年冬の完成を予定している。

本計画は、若い世代の流入を促進する居住機能と、隣接地に新設する体育館を活かした合宿にも対応した宿泊機能により、多世代が交流する秋田版CCRCを形成するものである。

計画の推進体制は、JR秋田支社、第一建設工業㈱、(株)ジェイ・エス・ビー、秋田ステーションビル㈱、(株)北都銀行となっている。2020年春の入居開始を予定している。

周辺施設と一体となって、第2期秋田市中心市街地活性化基本計画、秋田版CCRC計画と連動しながら、健康・スポーツを通じた玄関口・秋田の活性化につなげていきたいと考えている。

次に、⑤秋田市中通CCRC拠点整備事業について(株)北都銀行赤坂和仁地方創生副部長より報告した。

当事業は、秋田県の課題である人口減少、健康長寿の解決策として、CCRCによる移住定住、コンパクトシティによる中心市街地の活性化、スマートウェルネスによる健康長寿の3つをコンセプトとして取り組むものである。

医療・介護サービス、生活サービス、金融サービスを通じて地域住民・移住者が健康で生き生きとした生活を送ることができる連携モデルと考えている。

現在、地盤調査・基本設計を終え、実施設計の段階に入り、土地開発業者の選定、入居テナントとも交渉しながら詳細な事業計画に着手している。来年5月以降に着工する予定である。

建物概要については、高さ60メートルに変わりはないが、1階あたりの天井の高さを高くした都合上、18階建てから17階建てに変更した。

1階から4階は商業部分として、クリニック、エステサロン、金融機関、薬局、地域交流スペースを設けている。5階以上は住宅部分となっており、首都圏在住の秋田県出身者の高齢者世帯をターゲットとし、分譲や賃貸住宅として50戸を予定しているが、実施設計を進めるにあたり、もう少し増える見込みである。

ハード整備と並行し、コミュニティの形成が重要と考えており、その実効性を上げ、様々な分野の専門家の意見や知見を参考にするため、連携協定を締結した4者をコアメンバーとし、秋田県、秋田市、秋田商工会議所をオブザーバーに迎えて、秋田市中通地区まちづくり協議会を4月26日に設置した。これまで4回開催している。2020年10月のオープンに向け、今後の進捗状況は随時報告する。

【出された意見・質問】

藤井明委員（仲小路振興会会長）

千秋公園の桜の更新について、市民から「千秋公園さくらファンド」として基金を集め、活用されていると思うが、どのように利用されているのか。

→（秋田市建設部公園課保坂課長）平成21年度から実施している。現在まで約780万円が集まっており、これまで土壌改良を主に約150万円を計画的に使わせてもらっている。

→（藤井委員）市民に浸透していないので、積極的にPRしてもらいたい。

(2)秋田市中心市街地活性化協議会事業の進捗について

①中心市街地商店街活性化支援事業について、当協議会では第2期秋田市中心市街地活性化基本計画に掲載されている民間事業の円滑な推進を支援するため、公募のうえ3事業の支援を決定しており、各団体からその進捗状況が報告された。

始めに、秋田市民市場竹内順事務局長より、調査分析事業の進捗状況を説明した。

秋田市民市場では現状の把握と分析を行い、地域における買い物の場としての需要を高める経営計画策定の基礎づくりを実施している。

現在73店舗が入居し、空き区画は10店舗分ある。(株)あきぎんリサーチ&コンサルティングに調査を依頼し、現在はアンケート調査を集計しているところ。年内に提案書を受け取る予定である。来年以降、具体的な経営計画の策定に入る。

続いて、川反外町振興会 長澤欽一会長より、川反通りサイン設置事業の進捗状況を説明した。

来訪者に対して川反エリアの明確化を図るため、北側に位置する川反3丁目公園敷地内に、竿灯大通りを意識した大型サインを設置した。

設置により、竿灯大通りを走るリムジンやタクシーからの視認性が高まり、南側の5丁目サインと併せ、川反エリアが明確化できたと考えている。

また、川反エリアが明確化されたことにより、イベント開催時などでの回遊性向上が図られ、周辺商店主からも好評を得ている。今後も、様々な箇所にサインを設置していきたいと考えている。

次に、まちづくりマネジメント(株)高堂裕代表取締役より、秋田町屋プロジェクトの進捗状況を説明した。現在、事業計画書および大町町屋のイメージ図を作成しており、ホームページによる公開と第1期出店意向者の反響や意向の把握は来年2月頃の実施を見込んでいる。

今後の予定として、平成30年度は出店希望者の本格的な募集を開始し、その上で町屋全体の事業計画を策定する。策定した事業計画をもとに国、県、市、金融機関等の関係機関と協議・調整を行い、事業の実施は平成31年度を予定している。

②ミュージアム連携情報発信事業、③芸術文化ゾーン活用研究会について、事務局より一括して報告した。

ミュージアム連携情報発信事業については、主に中心市街地エリアに位置する美術館、史料館、展示ホールならびに民間ギャラリー等が開催している企画展を一冊に取りまとめ、2ヵ月に一回、「アートなまち歩き」という情報誌を1,500部発行している。当初は公共施設の掲載がメインであったが、民間ギャラリーからの掲載情報が充実しつつあり、次号は、1月から3月までの情報を掲載し1月上旬の発行を予定している。

芸術文化ゾーン活用研究会については、「芸術文化ゾーン」についての意識を共有し、周辺商店街・民間事業者と行政・文化施設との意見交換、連携を図る場として、当協議会内に設置した。

第1回研究会を6月20日に開催し、各団体の取組みを紹介と意見交換を行った。また、9月27日～28日には、先進地視察を実施している。八戸・十和田・弘前市の3市を14名で視察し、コーディネーターを秋田公立美術大学の藤浩志副学長に依頼した。藤副学長からバス内で、訪問先の現状や取組みについて事前レクチャーを受けたことにより理解が深まり、大変有意義な視察となった。今回の視察には秋田魁新報社から同行取材いただき、「青森にみる芸術文化と街づくり」と題した3回シリーズが紙面掲載された。

また、11月28日に第2回研究会を開催した。先進地視察の報告と第1回目の研究会開催以降に行った各団体の取組み紹介および次年度の実施を計画している連携事業を提案させていただいている。次回1月下旬開催予定の研究会まで検討いただき、再度協議することとしている。

(3)その他

①ウッドデザイン賞2017最優秀賞受賞および②あきた光のファンタジーの実施について、JR秋田支社永杉博正地域活性化推進室長が説明した。

ウッドデザイン賞については、秋田公立美術大学の小杉栄次郎准教授より協力いただいております、小杉准教授に説明をお願いしたい。

(小杉准教授) JR秋田支社から、木を使った居心地のよい空間を作りたいとの相談があったことから始まった。行政と民間企業(JR、地元企業)が連携し、プロジェクトを長期間にわたって進めたことが高評価につながった。デザインも良くしたつもりだが、様々な立場の方々に積極的に関わっていただいたことが良かったと考えている。

(永杉室長) 今後も秋田を発信し、様々な方にご来県いただき、まちづくりの活性化に繋がっていきたいと考えている。

あきた光のファンタジーについては、なかいちウィンターパークと連携して11月18日から2月28日までの期間で実施している。

③なかいちウィンターパークの実施について、秋田まちづくり(株)畠山豊代表取締役が説明した。

あきた光のファンタジー開催期間と同じ期間で開催し、今回で5回目となる。期間中はクリスマスライブ、年末のカウントダウンパーティーなど、各種イベントを企画している。今年の新しい取組みとして、小学生を対象とした冬休みワークショッププリレーを12月13日から1月14日までの期間で開催する。「将来何をしたいか」など、クリエイティブな才能を伸ばすための企

画である。具体的にはサッカーの試合で使えるドリブルテクニック伝授、Youtuber Academy Camp、キッズダンスなどのワークショップを行う。

④なんもダイニングの実施について、秋田市民市場竹内順事務局長が説明した。

12月2日に開催した。市場全体を食堂と見立て、お客様に楽しんでいただく企画である。当企画をきっかけに市場に足を運んでもらいたいと考えている。普段は小分け販売を行っていない既存のお店にも協力いただいている。

⑤ミュージカル東海林太郎伝説の公演について、事務局よりミュージカル東海林太郎伝説のチラシをもとに説明した。「赤城の子守歌」「国境の町」など数々のヒット曲を生み出した秋田市出身の歌手、東海林太郎の激動の人生を描いたミュージカル公演を、にぎわい交流館A Uで開催している。また、本日入場者1万人を達成した。年末・年始も公演しており、是非観覧いただきたい。

⑥東北経済産業局からの施策説明について、東北経済産業局商業・流通サービス産業課鈴木光弘課長が地域・まちなか商業活性化支援事業、新たな商店街政策の在り方検討会での中間取りまとめの概要を説明した。

【出された意見・質問】

佐々木清委員（広小路商店街振興組合）

千秋公園お堀前に並ぶのぼり旗が景観を損ねている。設置を禁止するなど検討いただけないのか。必要であれば、広小路商店街振興組合で無料利用できるアームを準備しており、活用してPRいただきたい。

→（三浦会長）担当部署を調べ、検討していきたい。

高堂裕委員（秋田市大町商店街振興組合会長）

千秋公園内の植生調査は現在も行っているのか。

→（秋田市建設部公園課保坂課長）本市環境部で調査した資料はあるが、公園課では調査をしていない。

閉 会